



埼玉県議会議員

武内まさふみ

たけうち

県政を身近に!

2012
平成24年
夏季号

県政 報告

Vol.005

発行:埼玉県議会 自民党県議団

6月定例県議会 平成24年6月18日～7月6日

昨年到现在、2回目の一般質問に登壇しました。



▲議会傍聴参加の皆さん

ご挨拶

皆様の温かいご支援をいただきながら、県議会議員として2年目に入りました。毎議会終了後に年4回発行している県政報告も2巡目となり、このたび第5号を発行することとなりました。

今回は、6月定例県議会での主な議決案件の報告と、私の県議会での一般質問の内容をトピックとして取り上げました。

一般質問で明らかになったこと

埼玉に40番目の『市』誕生

白岡町が平成24年10月1日から市となります。この関連の条例整備と議決を行いました。これにより、本県では市が40、町が22、村が1(合計63)となります。市の数は埼玉県が全国一です。



白岡町(白岡市)

<町が市となるための主な要件>

- ・人口5万人以上
- ・中心市街地を形成している区域内の戸数が、全戸数の6割以上
- ・都市的業態に従事する者及び同一世帯の者が、全人口の6割以上
- ・官公署が相当数設けられていること、…など。

草加市に特別支援学校を新設

<学校設置条例の一部を改正する条例>

埼玉県立草加かがやき特別支援学校(草加市)を新設。全県で35校目。

郵便局のバリアフリー化を継続

<高齢者、障害者等が円滑に利用できる建築物の整備に関する条例の一部を改正する条例>

法律の改正に併せて、郵便局のスロープ対策などを引き続き行えるようになります。

●県内初、全市民参加の防災訓練を実施

全市民参加で防災訓練

県、飯能市 県内初、8万人対象
9月2日

県が飯能市で行った全市民参加の防災訓練。約8万人が参加した。訓練は、地震発生を想定し、避難誘導、火災発生時の対応、応急処置などを実施した。また、防災グッズの配布も行われた。

この訓練は、県内初となる全市民参加の防災訓練であり、約8万人が参加した。訓練は、地震発生を想定し、避難誘導、火災発生時の対応、応急処置などを実施した。また、防災グッズの配布も行われた。



(HPより引用)

▲千代田区で行われたシェイクアウト訓練

《私の考え》

私は、県職員時代に地域防災を担当した経験から、限られた人数の参加者がシナリオどおり行動できればよしとする防災訓練の効果に疑問を持っていました。また、夜間の実施や電気を止めたり、携帯電話を使えない状態にするなど、より現実味のある訓練が必要であると思います。

●ウメウィルスの県内2例目の感染を確認

人間で感染確認

ウメウィルス県内2例目

入間市の果樹園から、植物ウィルスの一種「ウメウィルス」が検出された。県内2例目の感染を確認した。このウィルスは、ウメの花や葉に感染し、花が咲かなくなったり、葉が変色したりする。また、人間でも感染することが確認された。

このウィルスは、ウメの花や葉に感染し、花が咲かなくなったり、葉が変色したりする。また、人間でも感染することが確認された。

▲埼玉新聞H24.6.28 ▲埼玉新聞H24.6.28



▲ウィルスに感染したウメの花や葉の様子(写真提供:横浜植物防疫所)

《私の考え》

越生町や毛呂山町では、ウメの栽培が盛んであり、今後もウメウィルスへの警戒が必要です。アブラムシが人について運ばれたり、ウィルスに感染されたウメやモモなどの苗木を持ち込むことが心配されます。一般の人にも知ってもらうことが大切です。今後も、県の検査やPRを徹底するようにフォローします。

●広域的視野から観光振興を

【質問】八高線の沿線は、深谷周辺から越生、毛呂山、八王子、横浜港への近代日本の輸出を支えた生糸の生産と輸送ルートであり、いわば「関東のシルクロード」であった。こうした一定のエリアを観光ゾーンとして指定し、そこから広域的な観光振興を進めてはどうか。

【産業労働部長】観光は一つの市町村で完結せず、多くの観光資源を広域的に結びつけることが重要である。今後は、広域的なゾーン設定も考え、回遊性の高い観光ルートを企画していきたい。

●「道の駅」の整備を



道の駅きたかわべ

【質問】県道飯能寄居線バイパスの周辺に、道の駅を整備したらどうか。

【県土整備部長】県西部地域には、多様な観光資源もあり、県道飯能寄居線バイパスの整備などにより、今後、道路利用者から「道の駅」のニーズは高まると考えている。道の駅の整備には、何よりも市町村からの発意が必要である。まずは地元市町村の意向や整備に向けた考え方を聞いて、県としてどのような支援ができるか検討したい。(裏面に続く)

〈表面からの続き〉

●災害時における拠点病院へのアクセス道路整備について

【質問】 県道川越坂戸毛呂山線と新川越越生線は、災害拠点病院に指定されている埼玉医科大学国際医療センターへの災害時のアクセス道路として重要。優先的に整備してはどうか

【県土整備部長】 両県道は、緊急輸送道路である県道飯能寄居線バイパスと新たに接続し、ネットワークを形成する。まずは、飯能寄居線バイパスの早期全線開通を進めたい。両県道については、バイパスの進捗状況や坂戸西スマートインターチェンジ開通後の交通状況などを総合的に勘案して、検討したい。

＜全質問項目＞

1. 首都直下型地震を想定した県の対応について
2. 「天下り」廃止を考える
3. 地域振興センターの見直しについて
4. 観光振興について
5. 県の試験研究機関の活性化について
6. 水の安全性確保について
7. 木質バイオマスの活用促進について
8. ウメ輪紋ウイルス対策について
9. 地元問題について（「道の駅」の整備、拠点病院へのアクセス道路整備）

*一般質問の全質問項目について、詳しくは、県議会のホームページ (<http://www.pref.saitama.lg.jp/s-gikai/>) をご覧ください。



5月26日、6月2日の両日、就任後初めての県政報告会を毛呂山町と越生町で開催しました。毛呂山で約160人、越生で約130人の参加者がありました。報告は、パワーポイントを使って、道路、河川、観光づくりなど地元に関係する県の事業を中心に説明しました。

武内まさふみの活動日誌

4月

●ドイツ視察

(4月15日～21日)

自民党県議団13名で、地域スポーツと環境対策をテーマに、ドイツを視察訪問した。視察で学んだことを一般質問で活かした。



▲サッカースタジアム(フランクフルト)



▲自転車道を走る親子(フライブルク)

●県土都市整備委員会の視察

〈自転車道整備〉

北九州市小倉南区の「自転車通行環境モデル地区事業」



▲歩行車道と自転車道が完全分離

5月

●県防災ヘリコプター説明会

(5月9日)

今年3月に納入された新型防災ヘリ、「あらかわ3」に試乗した。「あらかわ4」も新たに加わり、3機体制で6月に運行を開始した。



▲新型防災ヘリ「あらかわ3」

●利根川水系連合水防演習

(5月19日)

久喜市栗橋の利根川河川敷において、国と関東地方の都県が共同で実施した。



▲利根川水系連合水防演習に参加

6月・7月

●環境整備センター視察

(6月5日)

寄居町にある県の廃棄物埋め立て処分地を、県議会議員一期生が訪問。メガソーラーの建設予定地と資源循環工場を視察した。



▲県埋め立て処分地の全景

●黒山三滝 滝開きに列席

(7月1日)



▲山伏滝入りの儀の様子

健康に留意して、暑い夏を乗り切りましょう。

